

特別警報について

気象庁

特別警報の発表基準案等(一覽)

気象等に関する特別警報

| 現象の種類 | 基準案 | 過去の対象事例 |
|-------|--|--|
| 大雨 | 台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合 | H24.7九州北部豪雨(死者行方不明者29人) H23台風第12号(死者行方不明者104人) |
| 地面現象※ | | |
| 暴風 | 数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により | S34台風第15号 (伊勢湾台風、死者行方不明者5,000人以上) S09室戸台風(死者行方不明者3,000人以上) |
| 高潮 | | |
| 波浪 | | |
| 暴風雪 | 数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合 | — |
| 大雪 | 数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合 | S56豪雪(死者行方不明者152人) S38.1豪雪(死者行方不明者231人) |

【発表頻度】地域ごとに数十年に一回程度

【発表区域】市町村単位

【発表方法】**現行の警報の発表形式において、注意警戒文の冒頭に特別警報である旨とその種別を明示して発表(現行警報の電文形式は変更しない)**

※別途、喚起電文も配信予定

(特別警報の発表例)

令和11年11月11日1時17分 静岡地方気象台発表
 (【特別警報(大雨、暴風、波浪、高潮)】静岡県では、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水、暴風、高波、高潮に警戒して下さい。)
 静岡市南部【警報】大雨(土砂災害)、暴風、波浪、高潮【注意報】雷、洪水
 静岡市北部【警報】大雨(土砂災害)、暴風【注意報】雷、洪水
 ~中略~
 森町【警報】大雨(土砂災害、浸水害)、洪水、暴風【注意報】雷=

※地面現象については、現行の警報と同様、大雨特別警報に含めて「大雨特別警報(土砂災害)」として発表する。

津波に関する特別警報

【基準案】高いところで3mを超える津波が予想される場合

【発表頻度】全国的に見て概ね十年前後の間に一回程度

【発表区域】津波予報区(概ね都道府県と同様の区域割)単位

【発表方法】**現行の大津波警報を特別警報と位置付ける(基準・電文形式・発表名称は変更しない)**

対象事例 H23.3 東北地方太平洋沖地震(16.7m※痕跡高)

H5.7 北海道南西沖地震(29m※遡上高)

S58.5 日本海中部地震(6.6m※遡上高)

(改正法施行前)

(改正法施行後)

| 警報の種類 | 発表の種別 | 基準 | 特別警報の種類 | 発表の種別 |
|-------|-------|-----------------|---------|-------|
| 大津波警報 | 警報 | 3m超 3m | 特別警報 | 大津波警報 |
| 津波警報 | 警報 | 1m超 1m | 警報 | 津波警報 |
| 津波注意報 | 注意報 | 20cm | 注意報 | 津波注意報 |
| 津波予報 | 予報 | 若干の海面変動 津波無し | 予報 | 津波予報 |

火山に関する特別警報

【基準案】居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される

【発表頻度】全国的に見て概ね十年前後の間に一回程度

【発表区域】市町村単位

【発表方法】**現行の噴火警戒レベル4以上に相当する噴火警報を特別警報と位置付ける(基準・電文形式・発表名称は変更しない)**

対象事例 三宅島(H12)、有珠山(H12)、雲仙岳(H3)

(改正法施行前)

(改正法施行後)

| 予警報 | 対象範囲 | レベル | キーワード | 予警報 | 対象範囲 | レベル | キーワード |
|------------|---------------|-----|---------|------|------------|-----|---------|
| 噴火警報(居住地域) | 居住地域及びそれより火山口 | 5 | 避難 | 特別警報 | 噴火警報(居住地域) | 5 | 避難 |
| | | 4 | 避難準備 | 特別警報 | 噴火警報(居住地域) | 4 | 避難準備 |
| 噴火警報(火山周辺) | 火山口から居住地域近くまで | 3 | 入山規制 | 警報 | 噴火警報(火山周辺) | 3 | 入山規制 |
| | | 2 | 火山口周辺規制 | 警報 | 噴火警報(火山周辺) | 2 | 火山口周辺規制 |
| 噴火予報 | 火山内等 | 1 | 平常 | 予報 | 噴火予報 | 1 | 平常 |

※噴火警戒レベルを運用していない火山についても従前の噴火警報(居住地域)を特別警報と位置付ける。

地震動に関する特別警報

【基準案】震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合

【発表頻度】全国的に見て概ね1~2年の間に一回程度

【発表区域】細分区域(概ね都道府県をいくつか分割したもの)単位

【発表方法】**現行の緊急地震速報(警報)における震度6弱以上を予想したものを特別警報と位置付ける(基準・電文形式・発表名称は変更しない)**

対象事例 H23.3 東北地方太平洋沖地震(死者行方不明者18,000人以上(津波含))

H20.6 岩手・宮城内陸地震(死者行方不明者23人)

H19.7 新潟県中越沖地震(死者行方不明者15人)

H16.10 新潟県中越地震(死者行方不明者68人)

H07.1 兵庫県南部地震(死者行方不明者6,437人)

(改正法施行前)

(改正法施行後)

| 警報の種類 | 発表の種別 | 基準 | 特別警報の種類 | 発表の種別 |
|------------|-------|-------------------|---------|------------|
| 緊急地震速報(警報) | 警報 | 震度6弱以上 | 特別警報 | 緊急地震速報(警報) |
| 緊急地震速報(予報) | 予報 | 震度5弱以上 | 警報 | 緊急地震速報(予報) |
| | | 震度3以上or M3.5以上 | 予報 | 緊急地震速報(予報) |

気象等の特別警報が対象とする現象

- ・府県程度以上にわたる広い範囲で、甚大な災害が同時多発的に発生。
- ・都市機能が麻痺、多くの集落が孤立し、復旧に長期間を要する。



- ・国、地方自治体等の防災関係機関は、最大限の防災対応が求められる。
- ・住民は、自らの判断・行動力により、命を守る最善の行動を直ちにとることが求められる。

| 現象 | 基準案 | | 過去の対象事例 |
|-------|--|---------------|---|
| 大雨 | 台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合 | | 平成24年7月九州北部豪雨 (死者・行方不明者29人) 平成23年台風第12号 (死者・行方不明者104人) |
| 地面現象※ | | | |
| 暴風 | 数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により | 暴風が吹くと予想される場合 | 昭和34年伊勢湾台風 (死者・行方不明者5,000人以上) |
| 高潮 | | 高潮になると予想される場合 | 昭和9年室戸台風 (死者・行方不明者3,000人以上) |
| 波浪 | | 高波になると予想される場合 | |
| 暴風雪 | 数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合 | | — |
| 大雪 | 数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合 | | 昭和56年豪雪(死者・行方不明者152人) 昭和38年1月豪雪(死者・行方不明者231人) |

※地面現象については、現行の警報と同様、大雨特別警報に含めて「大雨特別警報(土砂災害)」として発表する。

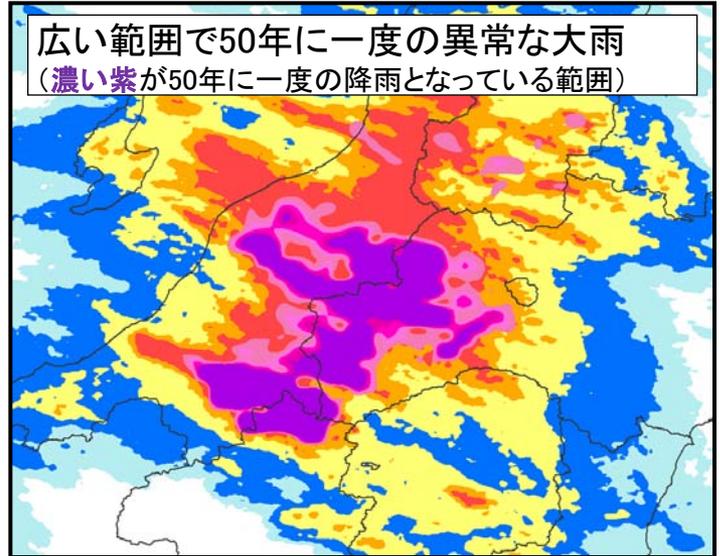
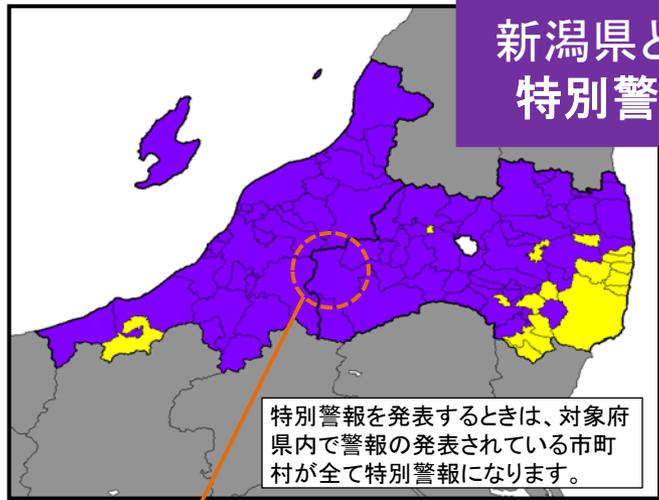
大雨の特別警報

(警報基準をはるかに超える異常な大雨)

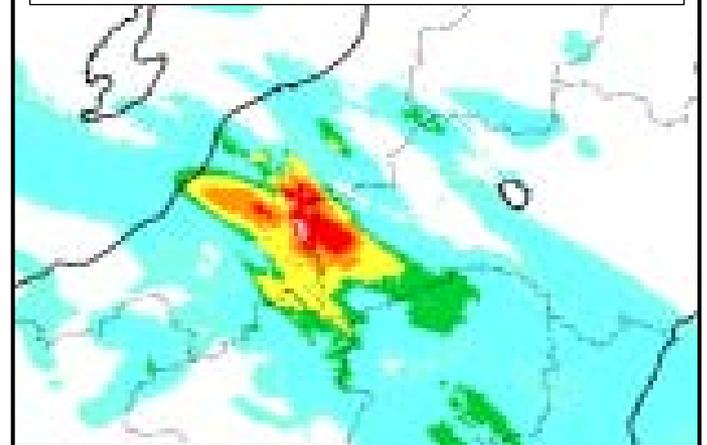
数十年に一度の大量の大雨が広がる地域に**大雨特別警報**を発表します。

例:平成23年7月新潟・福島豪雨

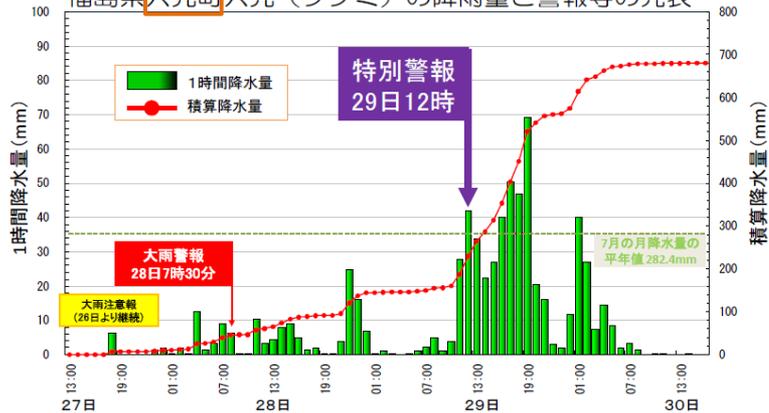
(死者・行方不明6人、全半壊1,071棟、床上・床下浸水9,025棟)



その後も降り続くと予想
(3時間後の予想降雨量。赤いところほど強い雨)



福島県只見町只見(タダミ)の降雨量と警報等の発表



大雨の特別警報発表の目安について

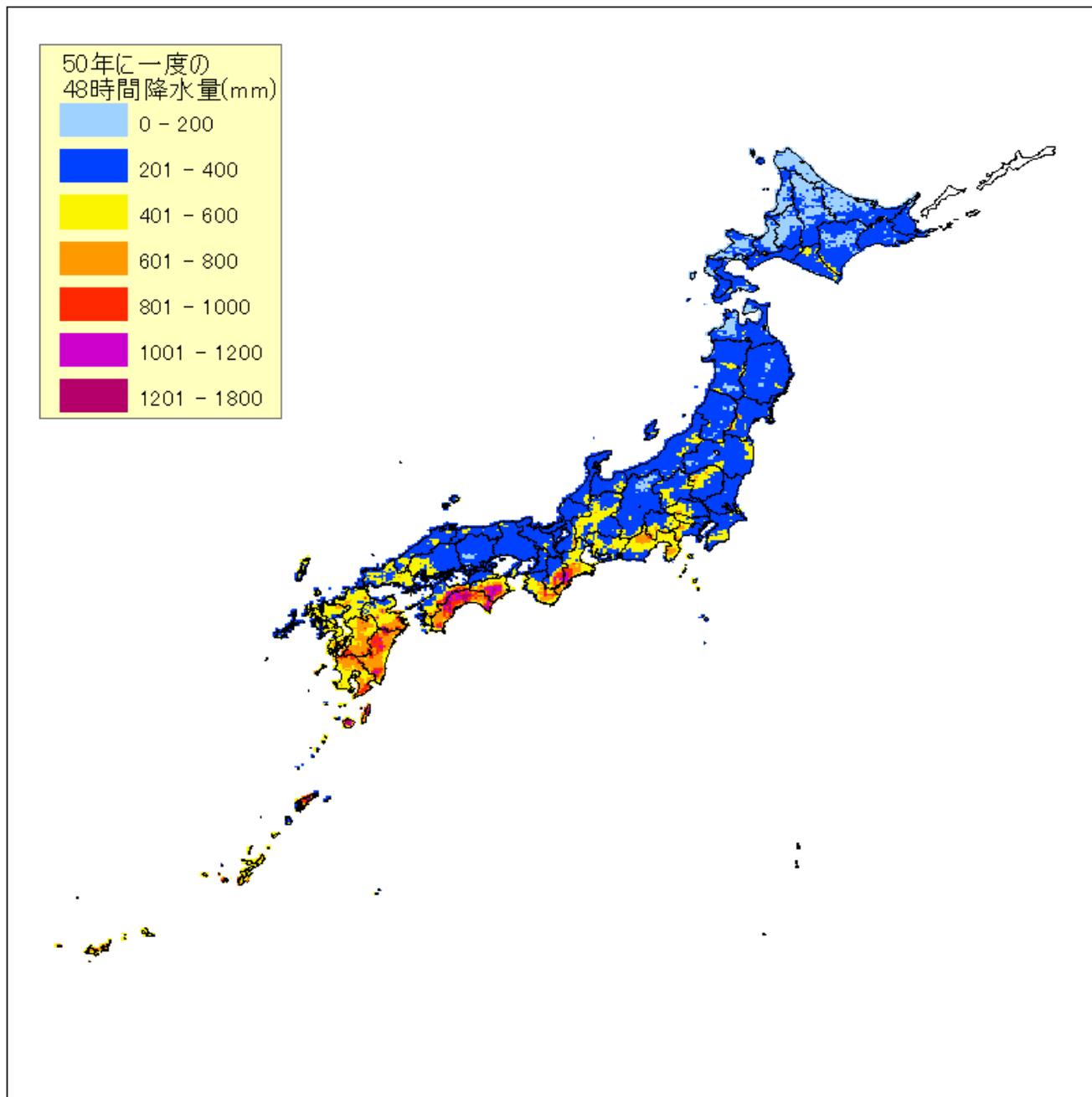
- ・以下①又は②いずれかを満たすと予想され、かつ、
 - ・更に雨が降り続くと予想される
- 場合に、大雨特別警報を発表する。

① 解析雨量48時間積算及び土壌雨量指数において50年に一度の値を超過した5km格子が共に府県程度の広がり の範囲内で50格子以上出現。

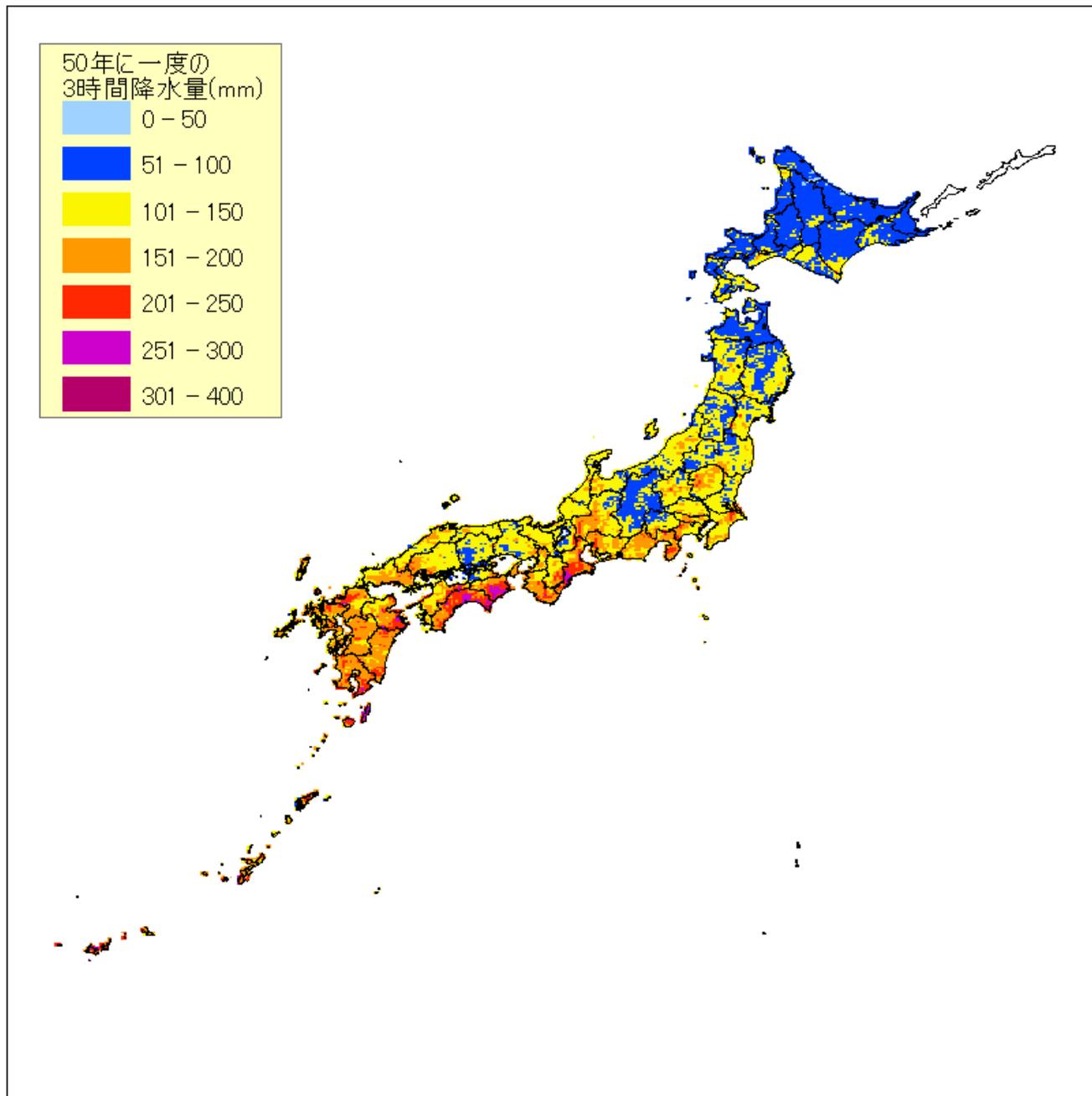
② 解析雨量3時間積算及び土壌雨量指数において50年に一度の値を超過した5km格子が共に府県程度の広がり の範囲内で10格子以上出現（ただし、解析雨量3時間積算が150mmを超える格子のみをカウント対象とする）。

この目安は、平成24年度出水期に実施した「記録的な大雨に関する気象情報」の発表目安をもとに、事後調査と検証を行い改善したもの。

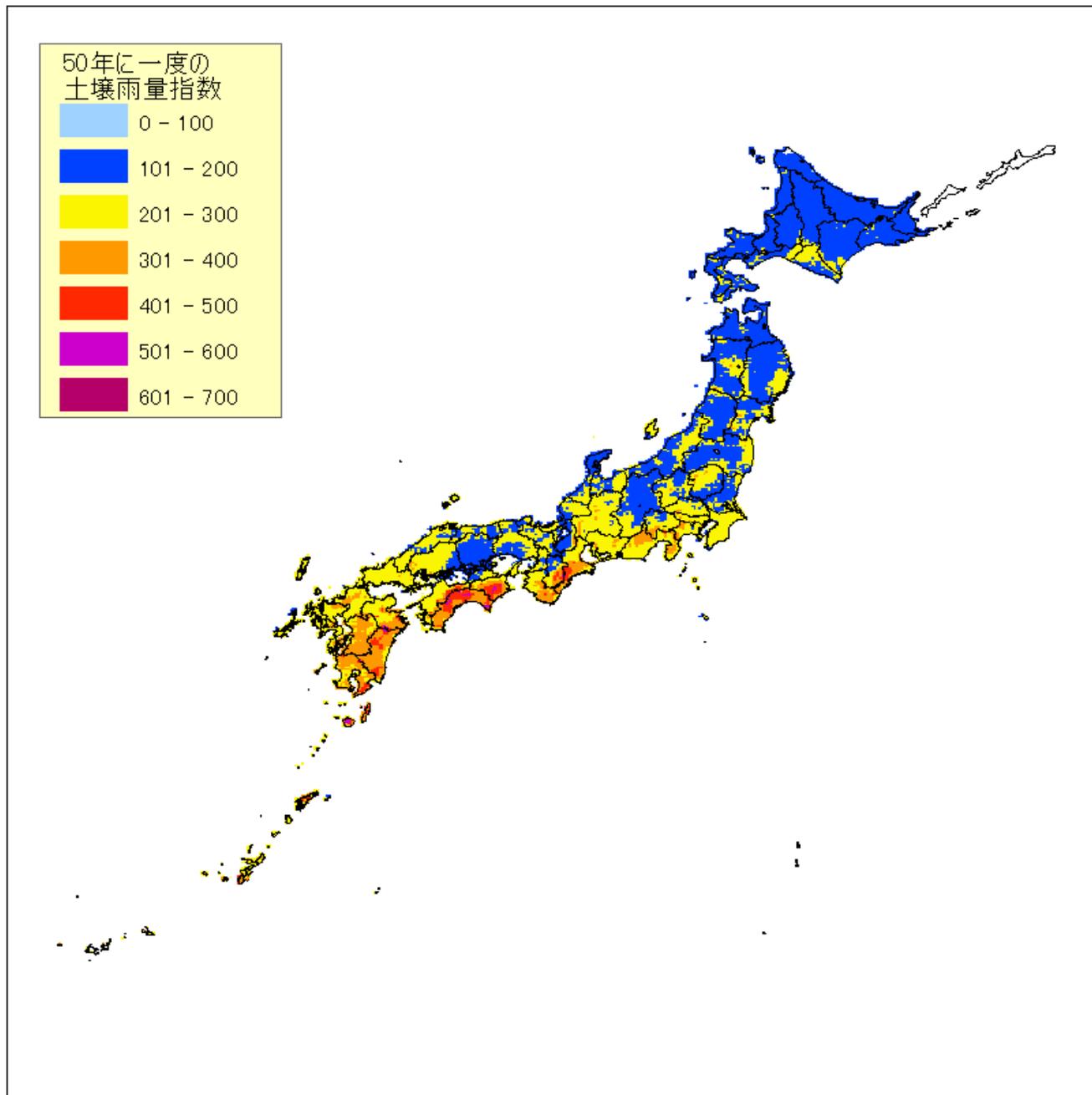
再現期間50年の48時間降水量



再現期間50年の3時間降水量



再現期間50年の土壤雨量指数



(参考)大雨特別警報が発表される主な事例

命名相当※の被害をもたらした多くの事例が対象となります。

(命名相当※: 損壊家屋1,000棟程度以上、浸水家屋10,000棟程度以上)

| 発生年 | 月日 | 現象 | 死者・行方不明者 | 住家全半壊 | 住家浸水 (床上+床下) |
|------|-------------|-------------------------|----------|-------|-----------------|
| 1993 | 7/31-8/29 | 梅雨前線、台風第7・11号(平成5年8月豪雨) | 93 | 950 | 16,496 |
| 1995 | 6/30-7/22 | 梅雨前線による大雨 | 5 | 211 | 18,208 |
| 1998 | 8/3-8/7 | 梅雨前線による大雨(平成10年8月上旬豪雨) | 2 | 19 | 17,694 |
| 2000 | 9/8-9/17 | 前線及び台風第14・15・17号 | 12 | 206 | 69,227 |
| 2002 | 7/8-7/12 | 梅雨前線及び台風第6号 | 7 | 50 | 10,318 |
| 2004 | 7/17-7/18 | 「平成16年7月福井豪雨」 | 5 | 201 | 13,727 |
| 2004 | 10/18-10/21 | 前線及び台風第23号 | 98 | 8,685 | 55,455 |
| 2006 | 7/15-7/24 | 「平成18年7月豪雨」 | 30 | 1,539 | 6,996 |
| 2009 | 8/8-8/11 | 熱帯低気圧及び台風第9号 | 27 | 1,313 | 5,602 |
| 2011 | 7/27-7/30 | 「平成23年7月新潟・福島豪雨」 | 6 | 1,071 | 9,025 |
| 2011 | 8/30-9/5 | 台風第12号 | 104 | 3,538 | 22,094 |
| 2011 | 9/15-9/22 | 台風第15号 | 19 | 1,610 | 7,840 |
| 2012 | 7/11-7/14 | 「平成24年7月九州北部豪雨」 | 29 | 1,863 | 12,606 |

被害数は消防白書からの引用を基本としている。消防白書に記載の無い事例の場合は、気象庁HPや理科年表等、他の出典からの引用。

「伊勢湾台風」級の異常な台風に伴う特別警報(大雨、暴風、高潮、波浪)

「伊勢湾台風」(昭和34年9月)

トップクラスの勢力

上陸時の中心気圧が低い台風

- 1位 室戸台風(中心気圧911.6hPa、昭和9年)
- 2位 枕崎台風(中心気圧916.1hPa、昭和20年)
- 3位 第2室戸台風(中心気圧925hPa、昭和36年)
- 4位 伊勢湾台風(中心気圧929hPa、昭和34年)**
- 5位 平成5年台風第13号(中心気圧930hPa、平成5年)

立ってられないくらいの猛烈な風

最大風速45.4m/s

最大瞬間風速55.3m/s



4mの高潮、10mの高波

389cm(名古屋港、観測史上1位)

熊野灘での最大波高10m以上(推定)

未曾有の被害

死者・行方不明者**5,000人**以上

負傷者**30,000人**以上

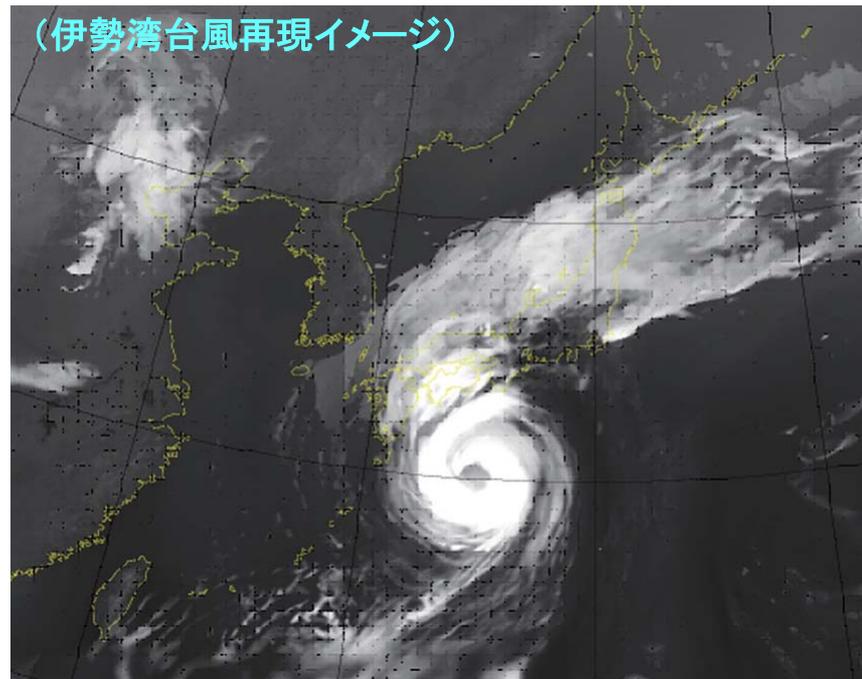
全半壊**15万棟**以上

床上浸水**15万棟**以上

高潮等による被害の状況

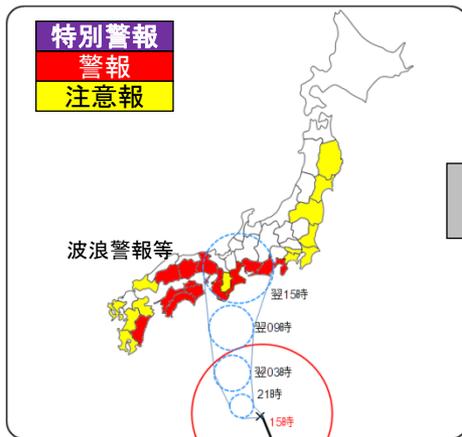


(伊勢湾台風再現イメージ)



「伊勢湾台風」級の台風が来襲する地域に、**大雨**、**暴風**、**高潮**、**波浪**の**特別警報**を発表します。

台風時の特別警報発表のイメージ

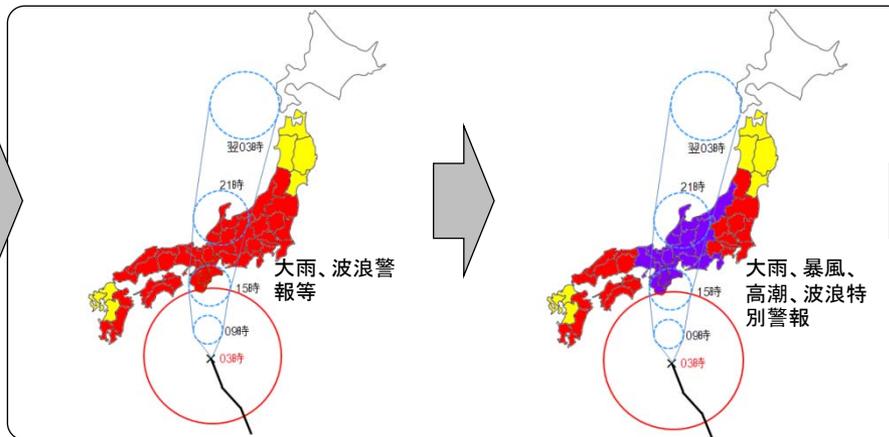


台風上陸24時間前

【〇〇県に接近可能性】
台風が〇〇県に明日以降接近、暴風雨の可能性。

【気象庁記者会見】
本庁・各地気象台で記者会見。**接近時間帯**や**特別警報可能性の言及**に注目。

【詳細は府県気象情報】
気象台からの**府県気象情報**で、**詳細な見通し**などをチェック。

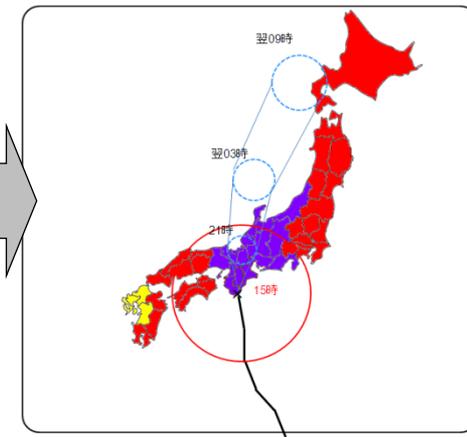


台風上陸6～12時間前

【〇〇県に猛烈な暴風雨必至】
勢力を保ったまま台風が上陸、各地域で猛烈な大雨や暴風が予想される。気象台は**特別警報を発表**。

【気象庁記者会見】
本庁・各地気象台の記者会見での**最大級の警戒呼びかけ**に注目。

【防災対応の徹底】
避難勧告や指示など**対応策の検討・実施**。



台風上陸以降

【情報の更新】
台風の進行に伴い、**特別警報の切り替え**を発表。併せて**最新の台風予報、府県気象情報**などにも注目。

【状況に応じた対応】
状況の変化や最新の気象情報に応じた**的確な防災対応**。

異常に発達する温帯低気圧に伴う特別警報について

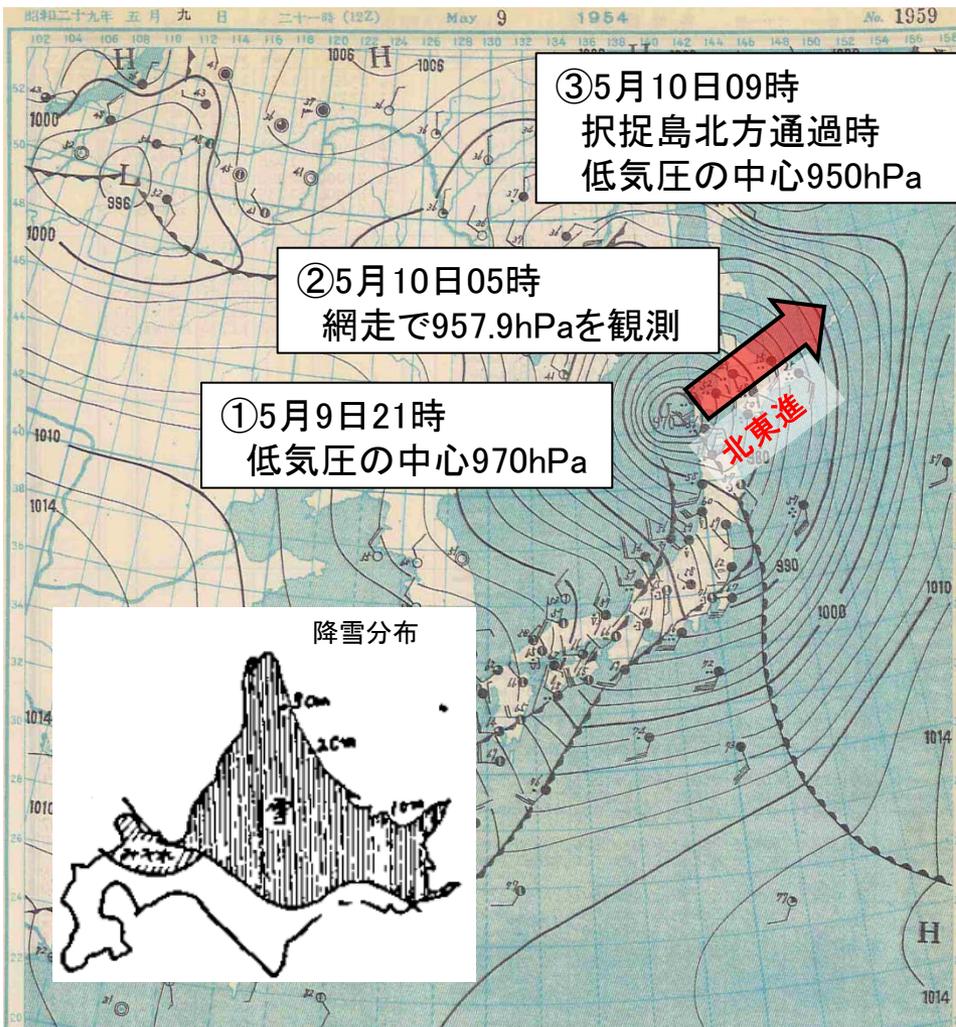
特別警報に該当する過去事例は無いが、本事例を超えるような温帯低気圧が対象となる。

昭和29年5月の温帯低気圧

北海道とその近海で**暴風雨・暴風雪**が発生。北日本で**暴風**による被害が大きく、各地で家屋倒壊や農作物被害。また多くの漁船が遭難・沈没。

最低気圧：957.9hPa(網走)
(最終的に950hPaまで発達)
最大風速 35.2m/s(浦河)

北海道の被害(「災害発生記録」(北海道庁)より)
死者26人、行方不明390人、負傷者69人
全壊301棟、半壊474棟
船舶沈没51隻、不明24隻、座礁8隻



温帯低気圧についても、「伊勢湾台風」級が来襲する地域に、**大雨、暴風(雪を伴う場合は暴風雪)、高潮、波浪**の**特別警報**を公表します。

(参考) 暴風等の特別警報が発表される主な台風事例

「伊勢湾台風」級※が対象となります。

(「伊勢湾台風」級※: 中心気圧が930hPa、風速50メートル程度)

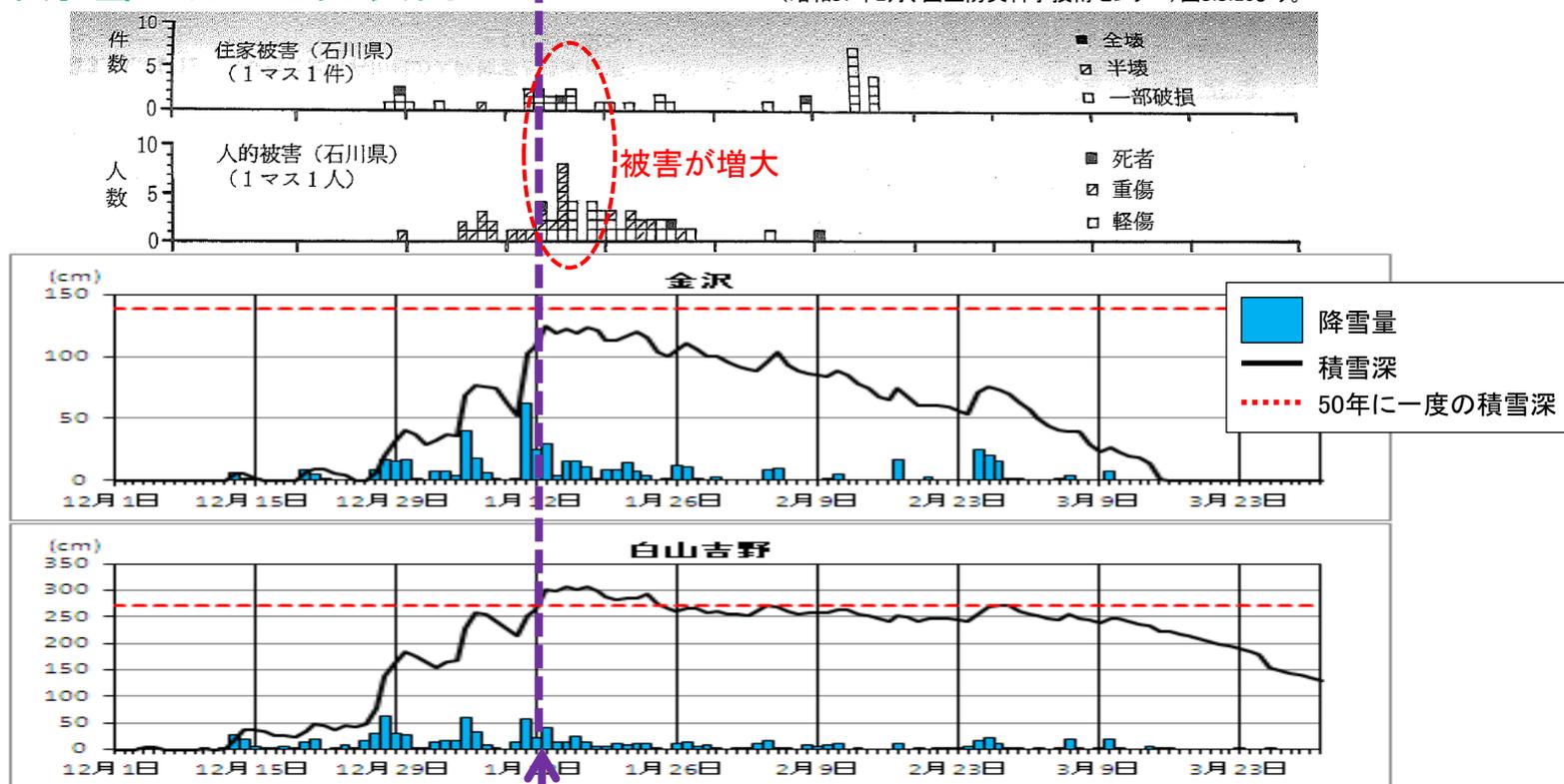
| 名称 | 上陸時 中心気圧 | 上陸日・上陸場所 | 被害 |
|------------|-------------|-------------------------|--|
| 室戸台風 | 911.6hPa | 昭和9年9月21日 高知県室戸岬の西 | 死者・行方不明者3,000人以上 負傷者14,000人以上 住家被害9万棟以上 床上・床下浸水40万棟以上 |
| 枕崎台風 | 916.1hPa | 昭和20年9月17日 鹿児島県枕崎市付近 | 死者・行方不明者3,700人以上 負傷者2,400人以上 住家被害8万棟以上 床上・床下浸水27万棟以上 |
| 第2室戸台風 | 925hPa | 昭和36年9月16日 高知県室戸岬の西 | 死者・行方不明者202人 負傷者4,900人以上 住家被害6万棟以上 床上・床下浸水38万棟以上 |
| 伊勢湾台風 | 929hPa | 昭和34年9月26日 和歌山県潮岬の西 | 死者・行方不明者5,000人以上 負傷者30,000人以上 全半壊15万棟以上 床上浸水15万棟以上 |
| 平成5年台風第13号 | 930hPa | 平成5年9月3日 鹿児島県薩摩半島南部 | 死者・行方不明者48人 負傷者396人 全半壊1,784棟 床上浸水3,770棟 |

大雪の特別警報

数十年に一度の積雪深がある状態でさらにまとまった降雪があると、被害が急激に増大する傾向がある。

昭和56年豪雪における発表例

被害については、「昭和56年豪雪による北陸地方の災害現地調査報告」
(昭和57年2月、国立防災科学技術センター)図3.3.10より。



13日特別警報

(参考)大雪特別警報が発表される主な事例

| | |
|-----------|---|
| 昭和38年1月豪雪 | 死者・行方不明者 231人 住家全半壊 1,735棟 床上・床下浸水 6,978棟 |
| 昭和56年豪雪 | 死者・行方不明者 152人 住家全半壊 466棟 床上・床下浸水 8,097棟 |

数十年に一度の積雪深を超え、さらに雪が降り続く地域に、**大雪特別警報**を発表します。